



大
部
省

醫
制

1724



414
A4204



第一條 全國ノ醫政ハ之ヲ文部省ニ統

第二條 醫政ハ即人民ノ健康ヲ保護

疾病ヲ療治シ及ヒ其學ヲ興隆スル所

以ノ事務トス

第三條 文部省醫務局中ニ醫監副醫監

ヲ置キ專ラ醫政ヲ擔任セ

教育ノ事務ヲ擔任シ且海陸軍醫ノ他

大正十一年四月
大隈侯爵郵寄

ハ普子リ全國ノ醫師藥舗等ヲ管轄セシム

但シ海陸軍ニ於テ醫學ノ教育ニ関涉スルハ必ス之ヲ醫監ニ議スヘシ

第四條 全國內ニ衛生局七所ヲ設ケ大
中少ノ衛生ヲ置キ文部省ノ旨趣ヲ奉
シテ地方官ト協議シ其區中一切ノ醫
務ヲ管理セシム

但シ海陸軍陣病院ノ事務ハ此限ニ

非ラス

第五條 各地方ニ於テ醫務ニ関スル事
件ハ悉テ衛生局ト協議スヘシ

(當分)衛生局完備セサル間ハ文部
省ニ申出ツヘシ

第六條 地方官ニ於テ醫務掛ノ吏員一
二名ヲ置キ管内ノ醫務ヲ掌ラシム其
人名ハ兼テ文部省并ニ衛生局ニ届ケ
置クヘシ

但シ地方官員ヨリ兼任タルヘシ

第七條 地方ノ醫師及ヒ藥舗主家畜醫
等ヲ撰テ醫務取締トナシ衛生局地方
官ノ差圖ヲ受ケ部内日常ノ醫務ヲ取
扱ハシム

第八條 醫務取締ハ醫師藥舗主等ヨリ
出ス所ノ書類ヲ集メ毎年兩度二月七
月中衛生局ニ出スヘシ但シ臨時ノ願
伺等ハ其時々地方官衛生局ニ出スヘ
シ
醫務取締ハ各地ノ習俗并ニ衣食住等

ノトニ付現ニ健康ヲ察セハ衛生局ニ
申出ツヘシ
又流行病アリテ醫師ヨリ届出タル時
ハ病性ノ善惡流行ノ緩急ヲ察シ速ニ
衛生局并ニ地方官ニ届クヘシ
第九條 衛生局ノ長ハ区内ノ醫務ヲ任
スト雖モ大事ハ地方官學長院長等ト
議シテ其事實ヲ具シ決テ文部省ニ取
ヘシ

第十條 衛生局ノ長ハ學長院長及ヒ醫

務取締等ヨリ出ス所ノ書類ヲ集メ前
半年施行セシ醫務ノ得失醫學校病院
ノ盛衰醫師藥舗等ノ學術行狀ヲ察シ
テ之ヲ記シ且ツ區内人民ノ生死表ヲ
製シ後半施行スヘキ目的費用ヲ附
シテ毎年二度四月九月中之ヲ醫監ニ
申送スヘシ
所轄ノ地方ニ流行病アリテ醫務取締
ヨリ届出タル時ハ衛生局長急ニ醫務
取締及ニ地方ノ大醫碩學ヲ會シテ預

防救治ノ方法ヲ議シ之ヲ文部省及ニ
近隣ノ府縣ニ報告スヘシ

第十一條 醫監副醫監ハ全國ノ醫師藥
舗主及ニ醫學校病院等ヲ統括シ醫政
施設ノ得失ヲ勘察シテ事務ノ順序ヲ
定メ其費用ヲ算メ文部卿ニ啟ス

○第一 醫學校

第十二條 各大學區ニ醫學校一所ヲ置
キ病院ヲ屬ス

(當分)東京長崎二所ニ設ケ其他ハ

地方ノ便宜ヲ度リ漸ク以テ設立ス

第十三條 醫學校ハ預科三年本科五年

ヲ以テ學課ノ満期ト定ム

預科入学ハ十四歳以上十八歳以下ニ

メ小学卒業ノ證書ヲ所持スル者ヲ撰

ヒ體質ヲ檢シテ之ヲ許ス

但レ證書ヲ所持スル者ト雖モ教師

學長ノ意見ニ因リ更ニ小学科ノ内

醫學ニ緊要ナル教科ヲ檢スルコト

アルヘシ

入学免許ノ時期ハ毎年二次其月日

ヲ定メ三箇月前之ヲ報告スヘシ

豫科課目

甲 數學

乙 獨逸語學

丙 羅旬語學

丁 理學

戊 化學

己 植物學大意

〔庚〕動物學及ヒ鑛物學ノ大意

右ノ學科ヲ卒エル後ハ大試業ヲ遂ケ

豫科卒業ノ證書ヲ共一テ本科ニ入ラ

シム此試業ヲ本科

當分二十歳以下ノ生徒ヲ撰ヒ中

小學子ノ教科中讀書算術外國語

等其學ヒタル所ニ就テ之ヲ試業

トシテ年齢體質ヲ較量シ才力ノ當否

ヲ察シテ豫科入学ヲ許スヘシ

第十四條 本科入学ハ二十五歳以下ニ

ノ豫科卒業ノ證書ヲ所持スル者ニア

ラカレハ之ヲ許サス

他ノ學校ヨリ轉シテ本科入学ヲ請フ

者ハ従来所就ノ學長ヨリ其趣意及ヒ

本人ノ屬籍姓名年齢ヲ詳記シテ其入

ラント欲スル所ノ學長ニ送ルヘシ

本科入学ノ試業ハ毎年二次醫學校所

在ノ地ニ開キ醫監學長教官等五人至

七人ヲ以テ試業掛トシ醫監學長ノ内

一人ヲ以テ其會長トス但シ會長及ヒ

試業掛り人員ハ開場毎ニ文部卿之ヲ命ス

會長ハ地方ノ大醫碩学ヲ請ヒ試業ニ共カラシムルノ權アルヘシ

試業ノ時日場所ハ三箇月前文部省ヨリ報告スヘシ

當分本科入学ヲ請フ者ハ二十五

歳以下ニシテ数学獨逸語学羅旬語

学及ヒ理化学大意ノ試業ヲ遂ケ

之ヲ許ス各大学ニテ是ノ學校ハ其ノ所

(當分)ノ條ヲ
参考スヘシ

本科課目

甲 解剖學

乙 生理學

丙 病理學

丁 藥劑學

戊 内科

己 外科

庚 公法醫學裁判醫學及ヒ
護健法ヲ謂フ

右ノ学科ヲ卒業スル後ハ大試業ヲ遂ケ

醫學卒業ノ證書并ニ醫學士ノ稱號ヲ

此ノ試業ノ法前

第十九條 第一大學區醫學校ニハ專門

局ヲ屬シ醫學卒業ノ證書ヲ得タル者

持ニ一科ニ志シ其才器大成スヘキ者

ヲ撰ビ學費ヲ給シテ之ヲ入ル

專門ノ科目

解剖科

生理科

病理科

藥劑科

內治科

外治科

公法醫學科

此外家畜醫學科一所ヲ屬ス

當分專門局ノ設ナレト雖モ第一

大學區醫學校ニハ各科專任ノ外

國教師一人宛ヲ置キ專ラ其業ヲ

講修セシム

各大區ノ醫學校預科ノ學子間ニ於

ラハ第一大學區醫學學校ト差別ナ
カルヘシト雖モ本科ニ至テ或ハ
其期限ヲ伸縮スルコトアルヘシ
地方病院ニテ醫學ヲ教授スル者
本科入學ハ當分學科ノ試業ヲ要
セス従来醫ヲ業トセシ者ハ其長
ノ見計ヲ以テ員外ノ生徒トシ預
科ヲ經スメ直ニ本科入學ヲ許
スコトアルヘシ
右ノ病院ハ入學ノ生徒ニ限ラス

徧ク醫生ノ出席ヲ許スコトアルヘシ

第十六條 入學ノ生徒ハ學長ノ許可ヲ
得ルニ非サレハ妄ニ出入スルヲ許サ
ズ第十條ノ三規程ヲ參攷ス右地醫學
第十七條 貸費生ハ毎年兩度別段ノ試
業ヲ設ケ従来脩メタル所ノ學科ヲ檢
シ其撰ニ當ラサル者ハ之ヲ除クヘシ
第十八條 受業料ハ每一期六箇月ヲ一
開講前一時ニ之ヲ納ムヘシ

事宜ニヨリ受業料ヲ増減セシト欲ス
ル時ハ学長衛生局協議ヲ遂ケ文部省
ニ開申シ半年前之ヲ報告ス

第十九條 官費ノ病院ハ醫学校ニ屬ス
ルモノニ限ルヘシ

第二十條 醫学校附屬ノ病院ハ院長或
副院長當直医師藥局長以下ヲ置クヘシ
但シ其員數ハ院長其学長ニ議シ衛生
局地方官ノ協議ヲ以テ文部省ニ之
ヲ定ム

第二十一條 院長ハ公私病院ニ拘ハラ
ス醫術開業免狀第七條所持スル者
ニ非ヤレハ其職ニ任スルヲ許サス

(當分)本科課目ノ大意ニ通スル者
ヲ撰テ之ヲ任ス

第二十二條 醫学校附屬病院ノ院長ハ
專任或ハ学長副学長ヨリ選勤スルコ
トアルヘシ

第二十三條 院長ハ公私病院ニ拘ハラ
ス毎半年間療スル所ノ病客ノ員數治療

死亡病名等ノ明細表ヲ製シ毎年兩度
二月七月中衛生局及ヒ地方廳ニ出スヘシ
又難病奇患ノ始末及ヒ諸經驗等ヲ詳
記シ教師及ヒ自己ノ意見ヲ附シテ文
部省ニ出スヘシ

第二十四條 醫學校ニ屬スル病院ノ費
用ハ地方ヨリ其幾分ヲ給スヘシ
但シ入院料藥種料ハ院長其學長地
方官及ヒ衛生局ニ議シ文部省ニ申
達シテ之ヲ定ム

當分入院ノ病者ヲ分テ三等或ハ
五等トシ地方ノ便宜ニ應レテ每
等相應ノ入院料ヲ收ム極メテ貧
窮ニメ真實證アルモノハ納金ニ
及ハス^{各地病院ノ規則}
但シ此病院ハ診察料ヲ收ムヘカ
ラス

第二十五條 一府縣或ハ有志ノ人民協
同シテ病院ヲ建設セント欲スル時ハ
先ツ發起人社中ノ人負醫師教員ノ屬

籍姓名履歴及ヒ會社ノ方法資金ノ緣
由保續ノ目的ヲ記シ學問ノ課程病室
藥局ノ規則ヲ附メ地方官ニ出シ地方
官之衛生局ニ議シテ文部省ニ達シ
以テ許可ヲ受クヘシ
諸首使寮等ニ病院ヲ設ル者ハ医
師藥局掛ノ屬籍姓名履歴及ヒ院内ノ
諸規則ヲ記シ其長官ヨリ文部省ニ議
スヘシ

海陸軍ノ外地方病院ハ学科ノ條目医

師教員ノ撰奉等經テ医學校及ヒ附屬
病院ノ規則ニ準フヘシト雖モ地方ノ
情態ヨリ一時照準シ難キモノハ其
情實ヲ記シテ文部省ニ開申スヘシ

第二十六條 癩毒院癲狂院等各種病院
設立ノ方法ハ皆前條ニ則トルヘシ

○第二教員 附外國教師

第二十七條 凡ソ教員タルモノ醫學校
ハ勿論病院私塾ト雖モ必ス教授免狀
ヲ所持スヘシ但シ三人以下ノ子弟ヲ

教フル者ハ此例ニ非ス

教授免状ハ医学卒業ノ證書或ハ其專

修ノ一科若クハ數科ノ卒業證書ニ行

状證書所從未所就地方官ヨリ出スモノトス

ヲ添ヘテ衛生局ニ出シテ之ヲ受クヘ

シ

但シ衛生局ニテ異見アル時ハ更ニ

其学科ヲ試業スルコトアルヘシ

(現今)教員ノ職ニアルモノハ試業

ヲ要セス

第二十八條

教官

医学校ニテ教員ノ撰

任ハ学士ノ中ニ於テ其学科ニ卓越シ

タル者ヲ採用ス

(醫制)發行後凡ソ十年ノ間教官ヲ撰

用スルニハ其專任ノ科目二三條ヲ

検査ス

第二十九條

教官中ノ一人ヲ推シ學長

トシ學校一切ノ事務ヲ掌ラレム

學長ハ医監ノ撰挙ヲ以テ文部卿之ヲ

命ス

学長ハ躬ヲ教場ニ臨ニ教導ノ體裁教
官生徒ノ勤怠進否ヲ察シ全校ノ風儀
ヲ整ルヲ以テ旨トス

学校ノ事務ニツキ学長新ニ施行セレ
ト欲スルコトアラハ必ス先ツ衛生局

ニ議シ大事ハ決テ文部卿ニ取ルヘシ
学長ノ議若シ醫監ニ協ハカル時ハ直

チニ文部卿ニ申白スルヲ得ヘレ

学長ニハ在職中学校内ニ在テ一字ノ
居家ヲ給スヘシ若シ校内ニ相應ノ場

所ナキ時ハ接近ノ地ニ在テ之ヲ給ス

第三十條 学長ハ前半年間修ムル所ノ

学科ノ箇條生徒ノ負教階級等明細表
ヲ製シ後半年ノ課程ヲ記シ別ニ学校

ノ事務ニツキ自己ノ意見アルモノハ
之ヲ附メ毎年兩度二月七月中衛生局

ニ送ルヘシ

病院私塾ニテ醫學ヲ教授スルモノモ
亦右ニ同シ

第三十一條 教官ノ負教及ヒ褒貶黜陟

ハ医監学長ノ協議ヲ以テ文部卿之ヲ定ム

教官建議スル所アラハ必ス学長ニ申白スヘシ但シ学校ノ事ニ付文部卿及ヒ醫監ヨリ訊問スル時ハ其意哀ラ悉スヘシ

第三十二條 学長院長教員スルモノハ醫学校病院及ニ私塾ヲ論セス或ハ懶惰ニメ職務ヲ怠リ或ハ高賞ニ通メ好利ヲ謀ル等總テ不行跡アル時ハ免状

ヲ取揚ケ教授ヲ禁シ其地方及ヒ文部省ニテ其事由ヲ報告スヘシ

第三十三條 外國教師ハ免状預科教師ハ免状預科教師ハ免状預科教師

師ハ免状開業免状所持ノ者ニ非サレハ雇入ル、ヲ許サス

但シ第一大学區医学ノ教師ハ右ノ免状ヲ所持スルハ勿論親シク専門

第三十四條 外國教師全國ノ医政学校課程ニツキ建議スルコトアラハ必

ス先ツ其学長ニ議シ学長ヨリ医監ニ
開申スヘシ

第三十五條 外國教師ノ給料ハ一箇月
四百兩ヲ越ユヘカラス

但シ第一大学區医学校ニ於テ有名
ノ碩学ヲ雇フ時ハ此限ニアラス

一ニ
滿期帰國ノ時ニ臨ニ其勤勞ニ應シ
医監学長ノ協議ヲ以テ文部卿ニ申
白シ褒賞ヲ與フルコトアルヘシ

第三十六條 地方病院ニテ外國教師ヲ
雇フ時ハ此規則并ニ文部省教師雇入
條約規則書ヲ參攷シテ條約擬案ヲ製
シ文部省ニ出メ許可ヲ受ケ然ル後條
約ヲ結フヘシ

但シ教師到着ノ上ハ必ス所持ノ免
狀ヲ衛生局ニ出シテ點檢ヲ受クヘ
シ

(當分)在来ノ教師免狀ヲ所持セサ
ル者アラハ更ニ雇繼ヲ許サス

○第三 醫師

第三十七條 醫師ハ醫學卒業ノ證書及

七内科外科眼科產科等專門ノ科目二

箇年以上實驗ノ證書從來所就ノ院長

トスモノヲ所持スル者ヲ檢シ免狀ヲ與

ヘテ開業ヲ許ス

(當分)從來開業ノ醫師ハ學術ノ試

業ヲ要セス唯其履歷ト治績トヲ

較量シ姑ク之ヲ二等ニ分テ假免

狀ヲ授ク

(醫政發行後凡ソ十年ノ間)ニ開業
ヲ請フ者ハ左ノ試業ヲ經テ免狀
ヲ受クヘシ

甲 解剖學大意

乙 生理學大意

丙 病理學大意

丁 藥劑學大意

戊 內外科大意

己 病牀處方并手術

即今開業ノ假免狀ヲ得タル者ト

雖凡三十歳以下ノ者ハ毎三年必
ス右ノ試業ヲ遂ケ其免状ヲ受ク
ヘシ但シ篤志ノ者ハ年齢ニ拘ハ
ラス試業ヲ請フコトヲ得ヘシ
産科眼科整骨科及ヒ口中科等專
ラ一科ヲ修ムル者ハ各其局部ノ
解剖生理病理及ヒ手術ヲ檢シテ
免状ヲ授ク
種痘ハ天然痘病理治方ノ概畧及
ヒ牛痘ノ性状種法ヲ心得タルモ

ノヲ檢シ假免状ヲ與ヘテ施術ヲ

許ス 牛痘種法條
例別冊アリ

第三十八條 海陸軍ノ醫員ハ醫學卒業

ノ證書ヲ所持スルモノタルヘシ

(當分)海陸軍醫ヲ採用スルニハ各
其方法アルヘシト雖モ軍醫監必
ス醫監ニ協議シテ其等級ヲ定ム
ルヲ法トス

第三十九條 典醫侍醫亦前條ニ同シ

第四十條 開業免状ヲ所持セスメ病客

二 處方書ヲ與ヘ手術ヲ施スモノハ科
ノ輕重ニ應メ其處分アルヘシ

第四十一條 醫師タルモノハ自ラ藥ヲ

嚙クコトヲ禁ス醫師ハ處方書ヲ病家
ニ附與シ相當ノ診察料ヲ受クヘシ

當分診察料ハ各地方ノ貧富人

口ノ疎密路程ノ遠近等ニ從テ自ラ

差別ナキヲ得ス故ニ先ツ衛生局

ニテ其大略ヲ取調地方官ト協議

シ便宜ニ應メ之ヲ定ムヘシ

外科眼科産科口中科等ハ手術ノ

大小難易ニ由テ其料ヲ定ムヘシ

時宜ニヨリ診察料手術料ヲ増減

スル時ハ衛生局地方官協議ノ上

文部省ノ許可ヲ得テ報告スヘシ

二等醫師ハ願ニヨリ藥舗開業ノ

假免狀ヲ授ケ調藥ヲ許ス

調藥兼帶ノ醫師ハ他醫ヨリ處方

書ヲ投スルコトアラハ叮嚀ニ調

合シ毫モ私意ヲ加ヘス第六十一

條第六十三條第六十五條第六十六條第六十七條第六十八條及第七十九條ノ規則ヲ守リ藥舗主ノ所業ニ殊ナルコトナルヘシ

調藥兼帶ノ醫師ハ處方書調劑ノ

外ハ藥種ノ販賣及ヒ賣藥丸藥散藥膏藥

煉藥等ノ如キ調劑ニメ醫家ノ方箋ニ據ラズ諸人ノ需ニ應メ販賣スルモノヲ禁ス

第四十二條 處方書ニハ病人ノ姓名年齡病名藥劑分量用法ヲ記シ其下ニ年

月日及ヒ醫師ノ姓名ヲ書シテ印ヲ押スヘシ

第四十三條 醫師私カニ藥劑ヲ嚮キ或

ハ藥舗ニ通シテ奸利ヲ謀ルモノハ開

業ヲ禁シ文部省及ヒ地方廳ニテ其事

由ヲ報告スヘシ

第四十四條 醫師行狀正シカラス或ハ

懶惰ニシテ業ヲ怠リ危急ノ用ニ達セ

サル時ハ醫務取締區戸長ノ詮議ヲ以

テ地方官衛生局ニ届ケ醫業ヲ禁シ地

方廳ニテ其事由ヲ報告スヘシ

第四十五條 施治ノ患者死去スル片ハ

醫師三日内ニ其病名經過ノ日數及ヒ

死スル所以ノ原由ヲ記シ虚脱瘧瘵等ノ類ヲ

謂醫師ノ姓名年月日ヲ附シ印ヲ押メ

醫務取締ニ出スヘシ

第四十六條 醫師惡性流行病第扶私虎列刺天然

瘧疹類ヲ謂フアルヲ察セハ急速醫務取

締及ヒ區戸長ニ届クヘシ流行病預防法別冊アリ

第四十七條 醫師他所ニ轉メ開業セシ

ト欲スルモノハ所持ノ開業免狀ヲ其

地方ノ醫務取締及ヒ區戸長ニ出メ更

ニ許可ヲ受クヘシ若シ醫務取締區戸

長其許可ヲ怠リ或ハ之ヲ拒ム片ハ其

醫師ヨリ衛生局地方官ニ訴ヘシ

第四十八條 病家診察料ヲ送ラサル時

ハ醫師ノ申立ヲ以テ醫務取締及ヒ區

戸長之ヲ取立ヘシ

第四十九條 産科醫ハ生兒ノ男女死生

及ヒ年月日ヲ記シテ醫務取締ニ出ス

へし

但し流産モ三ヶ月以上ノ者ハ右ニ
同シ

(當分)内外科ヲ論セス總テ産婦ヲ
取扱フモノハ皆本條ニ準ス

第五十條 産婆ハ四十歳以上ニメ婦人

小兒ノ解剖生理及ヒ病理ノ大意ニ通

シ所就ノ産科醫ヨリ出ス處ノ實驗證

書産科醫ノ眼前ニテ平産十人難ヲ所

持スル者ヲ檢シ免状ヲ與フ

(當分)從來營業ノ産婆ハ其履歴ヲ

質シテ假免状ヲ授ク但シ産婆ノ

謝料モ第四十一條ニ同シ

(醫制)發行後凡十年ノ間ニ産婆營

業ヲ請フモノハ産科醫或ハ内外

ヨリ出ス所ノ實驗證書本條ニテ

檢シテ免状ヲ授ク若シ一小地方

ニ於テ産婆ノ業ヲ営ムモノナキ

片ハ實驗證書ヲ所持セサルモノ

ト雖モ醫務取締ノ見計ヲ以テ假

免状ヲ授ルヲアルヘシ

第五十一條 産婆ハ産科醫或ハ内外科
醫ノ差圖ヲ受ルニ非サレハ妄ニ手ヲ
下スヘカラス然レモ事實急迫ニノ醫
ヲ請フノ暇ナキトキハ躬ラ之ヲ行フ
トアルヘシ但ニ産科器械ヲ用ユルヲ
禁ス且ツ此時ハ第五十九條ノ規則ニ
從ヒ其産婆ヨリ醫務取締ニ届クヘシ
第五十二條 産婆ハ方藥ヲ與フルヲ許
サス

第五十三條 針灸治ヲ業トスルモノ

ハ内外科醫ノ差圖ヲ受ルニ非サレハ
施術スヘカラス若シ私カニ其術ヲ行
ヒ或ハ方藥ヲ與フルモノハ其業ヲ禁
シ科ノ輕重ニ應シテ處分アルヘシ

第四 藥舖 附賣藥

第五十四條 東京府下ニ司藥局ヲ設ケ
便宜ノ地方ニ其支局ヲ置キ藥品検査
及ヒ藥舖賣藥等ノ事ヲ管知ス
司藥局
章程別
冊ア

第五十五條 調藥ハ藥舗主藥舗手代及
ヒ藥舗見習ニ非サレハ之ヲ許サス

但シ藥舗見習ハ必ス藥舗主若クハ
手代ノ差圖ヲ受ケ其目前ニテ調藥
スヘシ

第五十六條 藥舗見習ハ十五歳以上ノ
モノヲ撰ヒ其藥舗主ヨリ醫務取締ニ
届ケテ之ヲ用フヘシ

第五十七條 藥舗手代ハ二十歳以上ニ
メ預科課目^三第^十條ノ大意及ヒ處方學ノ

試業ヲ遂ケ免狀ヲ受クヘシ

(現今)其用ヲ辨スルモノハ學科ノ
試業ヲ要セス

醫制發行後凡十年ノ間ニ藥舗手
代タラント欲スルモノハ算術理
化學ノ大意及ヒ藥物ノ名目品類
ヲ試問スヘシ

第五十八條 藥舗主タルモノハ從來所
就ノ藥舗主ヨリ本人ノ二箇年以上藥
舗手代ヲ勤メタル狀ヲ具 醫務取締

ヨリ衛生局ニ申達シ左ノ試業ヲ經テ
藥舖開業ノ免狀ヲ受クヘシ

〔甲〕實用化學

〔乙〕藥劑學大意

〔丙〕製藥學

〔丁〕毒物學

但シ製藥學校ニテ卒業證書ヲ得タ
ルモノ又ハ醫學卒業證書ヲ所持シ
テ藥舖主或ハ手代タシニテ欲ス
ル者ハ此例ニアラス

〔當分〕從來藥舖主タルモノハ學術
ノ試業ヲ要セス履歷明細書ニ照
準メ假免狀ヲ授テ開業ヲ許ス
醫制發行後凡十年ノ間ニ藥舖開業ヲ願
フ者ハ左ノ試業ヲ經テ免狀ヲ受クヘシ

〔甲〕算術

〔乙〕理化學大意

〔丙〕藥劑學大意

〔丁〕處方學大意

第五十九條 藥舖主及ヒ手代ノ試業ハ衛生

局司藥局長ノ内一人ヲ以テ會三トシ司藥局
附屬ノ吏員醫務取締地方ノ醫師藥舖主等五
人乃至七人ヲ撰テ試業試トシ毎年二次之ヲ開ク
ヘシ試業ノ時日場所ハ三ヶ月前文部省ヨ
リ報告スヘシ

第六十條 新タニ藥舖ヲ開カント欲ス
ル者ハ藥舖開業免状及ヒ行状證書從
所就ノ藥舖主或ハ二年以上ヲ醫務取
所住ノ地方官ヨリ出スモ締ニ出シテ其檢印ヲ受ケ屬籍姓名年
齡履歷ノ明細書ヲ添ヘ地方官ニ出シ

テ許可ヲ受クヘシ
醫務取締其檢印ヲ怠リ或ハ拒ム片ハ
衛生局ニ訴ユルヲ得ヘシ
第六十一條 免状ナクメ藥劑ヲ調合シ
或ハ藥種ヲ販賣スル者ハ科ノ輕重ニ
應シテ處分アルヘシ
第六十二條 藥舖ニハ精微ノ秤量器及
ヒ日本藥局方中ノ藥品純精ナルモノ
ヲ撰テ之ヲ備ヘ缺亡アラシムヘカラ
ス日本藥局方
別丹アリ

第六十三條 藥舗ハ衛生局ヨリ藥局ノ吏員不意ニ點檢スルコトアルヘシ

但シ贗藥敗藥ヲ貯蓄スル者ハ其事故ヲ糺シテ相當ノ處分アルヘシ

第六十四條 藥舗主及ヒ手代ハ必ス醫師ノ處方書其外一定普通ノ藥方ヲ記メ需ムル者ニ非サレハ調合スルヲ許サス

但シ單味ノ品ハ劇藥ニ非サレハ醫師ノ外タリ凡販賣自由タルヘシ

第六十五條 醫師ヨリ投スル所ノ處方書ハ其方ニ從テ精細ニ調合シ毫モ私意ヲ加フヘカラス

第六十六條 藥舗ニテ調合シタル藥劑ハ病人ノ姓名藥名分量用法及ヒ年月日ヲ記シ印ヲ押メ之ヲ與フヘシ

第六十七條 處方書ハ順次ニ其本書ヲ貯ヘ一箇月分宛一冊トシ二十年ノ間紛失スヘカラス若シ藥舗主病死或ハ事故アリテ藥舗ヲ廢スル時ハ其處方

書ヲ束子テ醫務取締ニ出スヘシ
但シ調藥兼帶醫師自箇ノ處方モ亦
右ニ準ス

第六十八條 劇藥ハ司藥局檢印ノ品ニ
非サレハ調合及ヒ販賣スルヲ許サス

當分劇藥ニ限ラス品ニヨリテハ
檢査スル事アルヘシ

第六十九條 劇藥ハ醫師ノ處方書ニ據
テ調合スルノ外ハ同業ノ者化學家及
ヒ調藥免許ノ醫師ヨリ其需要ノ旨趣

ヲ詳記シタル證書ヲ以テ求ムルニ非
サレハ決メ販賣スルヲ許サス

第七十條 右ノ規則ニ準ヒ劇藥ヲ販賣
スル時ハ其品ヲ固封シ印ヲ押メ表書

藥名ノ傍ニ毒ノ一字ヲ大書スヘシ
劇藥販賣ノ節ハ藥名分量年月日及ヒ
買入ノ姓名ヲ別帳ニ記シ買人ヨリ送
ル所ノ證書ハ二十年間紛失スヘカラ
ス

第七十一條 賣藥 丸藥散劑膏藥煉藥等
如藥散劑膏藥煉藥等
ノ如キ調劑ニメ醫家

應ノ方箋ニ據ラス諸人謂ノ需ニハ其藥味
分量功能用法及ヒ代價ヲ記シ地方廳
ヲ經テ衛生局ニ出シ免許ヲ受ルモノ
ニ非サレハ調製ヲ許サス

但シ藥味分量等有害ノモノ或ハ其
功能書ニ照メ不當ナルモノハ調製
發賣ヲ禁シ或ハ之ヲ改正セシムヘシ

第七十二條 免許ヲ得スメ賣藥ヲ製シ
發賣スル者ハ藥方ヲ禁シ調劑ヲ没入
シ科ノ輕重ニ應シテ其處分アルヘシ

第七十三條 賣藥家ハ衛生局或ハ司藥
局ノ吏員等不意ニ來リ調藥ノ場ニ臨
テ仔細ニ檢査スルコトアルヘシ若シ
其檢査ヲ拒ニ或ハ隱匿スル等ノ所業
アル者ハ相當ノ處分アルヘシ

第七十四條 配藥人賣弘所取次所及ヒ
賣子等ヲ總稱ス
ハ調藥師ヨリ其屬籍姓名年齢及ヒ開
店ノ場所ヲ記シテ醫務取締ニ届クヘ
シ

第七十五條 凡ソ賣藥ハ調藥師并ニ配

藥人ヲ合ノ一社ト看做シ調藥師ヲ社
長ニ擬ス故ニ其社中贋藥敗藥ヲ嚙キ
或ハ押賣スル等不正ノ所業アル時ハ
藥方ヲ禁シ調劑ヲ没入シ科ノ輕重ニ
應シテ其處分アルヘシ

第七十六條 藥舗及ヒ調藥師配藥人ハ
各一定ノ收税アルヘシ

